

海外生産が増えるアパレル業界の中で、岩手モリヤは社内一貫体制で高付加価値のある高級婦人服をつくり続けている。機械化と人的技術の向上を同時並行で進め、震災を機に大幅な光熱費削減にも成功した。『アパレルの聖地』と称される北岩手から、国内繊維業の未来を見据えたメード・イン・ジャパンの改革を進行中だ。

**働きやすい環境の下
スキルアップを後押し**

高級婦人用のジャケットやスーツ、コートの縫製加工を手掛ける岩手モリヤは、東京で創業した「モリヤ洋裁」の久慈工場として1974年に誕生した。東京時代から縫製技術の優れた女性従業員に久慈市出身者が多く、結婚や出産を機に郷里に戻る傾向がある中、久慈市から企業誘致の話が舞い込み、迷うことなく工場進出に踏み切ったという。

「縫製業は労働集約型産業です。技術のある人、特に女性に長く働いてもらうための工夫は必須です」と88年の現地法人化を機に、代表取締役社長に就任した森奥信孝さんは説く。特に96年に新築移転した現工場になってから、その傾向に拍車をかけた。まずはより働き

機械化と人的技術の向上を図り 電気量削減で生産性を高める

社名 岩手モリヤ株式会社
所在地 岩手県久慈市夏井町大崎13-3-3
電話 0194-53-5327
HP www.ginga.or.jp/iwatemoriya
代表者 森奥信孝 代表取締役社長
従業員 87人

岩手モリヤ
岩手県久慈市



▲縫製は4ラインで展開。生地織り、編み、縫製などの全工程を国内で行っていることを証明する「J∞クォリティ」認定を2015年に取得している

やすい職場づくりを考え、冬の雪道でも車通勤がスムーズにできる平地を選び、駐車場もゆつたりと確保した。工場内は足への負担を軽減するためコンクリートの床の上に厚さ約1cmの無垢材を貼り、社員食堂もあえて人目を気にせずくつろげるコーナーを設けるなど、働く人目線の設計を随所に取り入れた。

また、技術向上は人材育成にあり、岩手県認定の夜間学校、モリヤ久慈洋裁高等職業訓練校を敷

地内に開校したり、海外研修生・実習生を受け入れたりと、前向きに取り組んできた。

「中卒ではなく高卒の新卒者が増えてきて、訓練校は現地法人化した年に閉校し、外国からの受け入れも2005年に打ち切りました。技術を習得しても地元に残らず国に帰ってしまいますし、縫製技術は短期間で身に付くものではないと実感したからです」と森奥さん。

現在は、国家資格である婦人子供服製造技能士の習得を後押し

新春特集 ① 今が始め時 「社内改革」 大作戦

「新春」企画第1弾として、中小企業が抱えるさまざまな問題を各社の状況に合わせ知恵を絞った「社内改革」によって解決し、業績を上げている企業の実例を紹介する。「働き方」「人材確保」「コスト削減」……といったこの会社でも直面している問題を解決していった「社内改革」は、あなたの会社でも必ずできる！